

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2024年3月5日放送分・六道の辻】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 「東番丁を行く！」シリーズの3回目。青葉区五橋1丁目、JR東日本仙台支社のビルの北西側から、今回の歴史散歩はスタートです。北側＝仙台駅前や朝市の方向をみますと、真っ直ぐな道が伸びています。これが東四番丁。奥州街道から東に3本目の侍の街です。スタート地点の北目町通との丁字路が、東四番丁の南詰というわけ。
- 残念ながら「東四番丁」と刻んだ辻標はありませんので、今月はこの近くにある一風変わった辻標をご紹介します。その前に、番組では愛宕上杉通に面したJR東日本仙台支社とJR仙台病院、2つの建物の間にあるJRらしいモニュメントを見学しました。高さ3mほどの白いポールの先に、長方形の板がついています。「腕木(うでぎ)式機械信号機」といって、最も古いタイプの鉄道信号機のひとつです。只見線の会津高田駅で大正15年から60年間使われていた物を、持ってきて保存したようです。

- さて、今月の辻標は愛宕上杉通を挟んで、モニュメントの反対側にあります。「六道の辻」といいます。一つの地名しか刻まれていない、珍しい辻標です。木村さんによれば、不思議な地名の由来にはいくつか説があるそうです。ここは東四、五、六番丁の南の端。また、東西には北目町通が通ります。さらに、清水小路という通りが中央に水路を挟んで(つまり2本と数えます)南の荒町方面へ伸びて行く…。全部で6本の道が集まる辻だったのです。六道とは仏教用語でもあります。亡くなった人が生まれ変わる6つの世界(天道・人間道・修羅道・畜生道・餓鬼道・地獄道)の事で、「六道の辻」はあの世の入口を意味する交差点なのです。実際この辻の東側一帯は、新寺小路の寺町。お墓が多いエリアですよ(笑)。北目町のガードでは、線路の番線が増えたため継ぎ足された“コンセキ”を確認。今回の歴史散歩はここまでです。



〈文・佐々木淳吾〉